

さいたま市まち・ひと・しごと創生総合戦略 の振り返り

総合戦略の内容については「**参考資料 2**」、
各 K P I の達成状況については「**参考資料 3**」
をそれぞれご確認ください。

1. 基本目標及びKPIの達成状況(H30実績)一覧

基本目標に紐づく各施策の進捗状況を検証するために設定する指標
(Key Performance Indicator (重要業績評価指標)の略称)

基本目標	数値目標 (計画策定当初値 → 目標値)	5つの基本目標ごとに、総合戦略の目標年次における達成状況を検証するために設定する指標	最新実績値	達成状況 (※)	KPIの達成状況(H30実績)			
					A 目標を上回って達成	B 目標を概ね達成	C 目標を未達成	目標達成(A+B)割合
1 次代を担う人材をはぐくむ「若い世代をアシスト」	①年少人口 171,265人(2015年) → 172,500人		171,890人 (2020年)	99.6%	1	6	3	70%
	②転入超過数 6,312人(2014年) → 12,300人		12,766人 (2019年)	103.8%				
2 市民一人ひとりが元気に活躍する「スマートウェルネスさいたま」	①65歳の健康寿命 男16.98人、女19.71年(2013年) → 男19年、女22年		男17.68年 女20.43年 (2017年)	男93.1% 女92.9%	3	7	1	91%
3 新しい価値を創造し、革新(イノベーション)する「産業創出による経済活性化」	①法人市民税法人税割額の納税義務を負う企業数 11,857社(2013年) → 14,900社		14,428社 (2018年)	96.8%	8	7	5	75%
	②市内事業所数 41,979事業所*(2014年) → 42,600事業所 *H26経済センサスの速報値。確定値は、42,888事業所		41,330事業所 (2016年)	97.0%				
	③市内事業所従事者数 530,708人*(2014年) → 549,900人 *H26経済センサスの速報値。確定値は、523,367人		509,450人 (2016年)	92.6%				
4 自然と共生しながら、都市の機能を向上する「上質なくらしを実現できる都市」	①市民1人当たり温室効果ガス排出量 4.12t-CO ₂ (2009年) → 3.13t-CO ₂		4.05t-CO ₂ (2016年)	7.1%	3	5	4	67%
	②さいたま市内駅乗降客数 1,827,267人/日(2014年度) → 2,000,000人/日		1,977,588人/日 (2018年度)	98.9%				
5 みんなで安全を支える「安心減災都市」	①本市に「災害に強く、治安のよいまち」というイメージを持っていると回答した市民の割合 23.8%(2014年度) → 32.0%		28.9% (2019年度)	90.3%	5	13	3	86%

(※) 4の①は、2009年時点の数値(4.12-CO₂)からの削減の進捗割合。その他の項目は、目標値に対する最新実績値の達成状況。 2

2. 基本目標ごとの振り返り 基本目標（1）次代を担う人材を育む「若い世代をアシスト」

基本目標	数値目標 (計画策定当初値 → 目標値)	最新実績値	達成状況 (※)	K P I の達成状況(H30実績)			
				A 目標を上 回って達成	B 目標を 概ね達成	C 目標を 未達成	目標達成 (A+B)割合
1 次代を担う人材をはぐくむ「若い世代をアシスト」	①年少人口 171,265人(2015年) → 172,500人	171,890人 (2020年)	99.6%	1	6	3	70%
	②転入超過数 6,312人(2014年) → 12,300人	12,766人 (2019年)	103.8%				

(※) 目標値に対する最新実績値の達成状況。

(1) 達成状況

<基本目標の数値目標>

- ・「年少人口」は、最終目標値までは到達していないものの、当初値よりも目標値へ近づいている。
- ・「転入超過数」については、令和元（2019）年度改定において目標値を上方修正しているが、2019年において既に目標値を達成している。

< K P I >

平成30（2018）年度のA・B評価となったKPIの個数割合は70%であり、A・B評価に至らなかったKPIは、「待機児童数」、「CSRチャレンジ企業認証企業数」及び「ニートの就労機会の創出事業による就職等進路決定者数」であった。

(2) 振り返りと今後の方向性

年少人口が増加していることや、転入超過数が順調に増加していることなどから、**若い世代の人口流入と定住化に関する取組が成果に結びついている**と言える。ただし、「待機児童数」の削減目標値が達成されていないことや、平成30年度に人口が自然減に転じたこと、さらには今後人口減少局面を迎えることが予測されることなどから、**安心して子供を産み育てられる環境の整備に係る取組により一層注力する必要**があると言える。

これらのことから、基本目標（1）に係る取組は、**子育て支援施策だけでなく、幅広い分野で一層の取組の推進を図るべき**であると考えられる。

2. 基本目標ごとの振り返り 基本目標（2）市民一人ひとりが元気に活躍する「スマートウェルネスさいたま」

基本目標	数値目標 (計画策定当初値 → 目標値)	最新実績値	達成状況 (※)	K P I の達成状況(H30実績)			
				A 目標を上 回って達成	B 目標を 概ね達成	C 目標を 未達成	目標達成 (A+B)割合
2 市民一人ひとりが元気に活躍する「スマートウェルネスさいたま」	①65歳の健康寿命 男16.98人、女19.71年(2013年) → 男19年、女22年	男17.68年 女20.43年 (2017年)	男93.1% 女92.9%	3	7	1	91%

(※) 目標値に対する最新実績値の達成状況。

(1) 達成状況

<基本目標の数値目標>

- 「65歳の健康寿命」は、最終目標値までは到達していないものの、当初値よりも目標値へ近づいている。

< K P I >

平成30（2018）年度のA・B評価となったKPIの個数割合は91%であった。A・B評価に至らなかったKPIは、基本的方向①「市民一人ひとりの健幸づくり」のうち具体的施策1「働く世代からの一次予防と二次予防による健幸づくり」のKPI「がん検診の平均受診率」のみであり、基本的方向②「高齢者が活躍するまちづくり」のKPIはすべてA・B評価となった。

(2) 振り返りと今後の方向性

数値目標や各KPIは概ね順調に進捗しており、超高齢社会に対応する健康づくり等の取組が成果に結びついていると言える。ただし、「がん検診の平均受診率」の目標値が達成されていないことや、今後の更なる高齢化の進行を見据え、予防対策や医療、介護の充実などに関する取組を一層進めていく必要がある。

これらのことから、基本目標（2）に係る取組は、方向性を維持しつつ、一層の推進を図るべきであると考えます。

2. 基本目標ごとの振り返り 基本目標（3）新しい価値を創造し、革新（イノベーション）する「産業創出による経済活性化」

基本目標	数値目標 (計画策定当初値 → 目標値)	最新実績値	達成状況 (※)	K P I の達成状況(H30実績)			
				A 目標を上 回って達成	B 目標を 概ね達成	C 目標を 未達成	目標達成 (A+B)割合
3 新しい価値を創造し、 革新（イノベーション）する 「産業創出による経済活 性化」	①法人市民税法人税割額の納税義務を負う企業数 11,857社(2013年) → 14,900社	14,428社 (2018年)	96.8%	8	7	5	75%
	②市内事業所数 41,979事業所*(2014年) → 42,600事業所 * H26経済センサスの速報値。確定値は、42,888事業所	41,330事業所 (2016年)	97.0%				
	③市内事業所従事者数 530,708人*(2014年) → 549,900人 * H26経済センサスの速報値。確定値は、523,367人	509,450人 (2016年)	92.6%				

(1) 達成状況

(※) 目標値に対する最新実績値の達成状況。

<基本目標の数値目標>

- ・「法人市民税法人税割額の納税義務を負う企業数」は、令和元（2019）年度改定において目標値を上方修正しており、改定前の目標値（12,800社）は改定時で既に達成している。
- ・「市内事業所数」及び「市内事業所従事者数」は、増加させる目標のところ実績は減少となった。なお全国、埼玉県についても同様に減少している。

< K P I >

平成30（2018）年度のA・B評価となったKPIの個数割合は75%であり、「医療機器関連分野・ヘルスケア関連分野製品の商品化」や「海外新市場への販路拡大と企業支援拡充を通じた成約件数」といった民間への具体的支援が即座にアウトカムには繋がらなかったが、KPI全体で見るとA評価の個数割合が40%を占めており、基本目標のうちでA評価の割合が最も高い。

(2) 振り返りと今後の方向性

法人市民税法人税割額の納税義務を負う企業数が順調に増加していることから、**産業創出等による地域経済の活性化が一定程度の成果**が得られたと言える。一方で、市内事業所数及び事業所従業者数については、全国的な傾向ではあるものの目標から遠ざかっているため、地域経済の活性化に向けて懸念されるところであり、**「しごと」づくりに向けた取組の強化**が必要である。

これらのことから、基本目標（3）に係る取組は、**取組の改善と一層の推進を図るべき**と考えられる。

2. 基本目標ごとの振り返り 基本目標（4）自然と共生しながら、都市の機能を向上する「上質なくらしを実現できる都市」

基本目標	数値目標 (計画策定当初値 → 目標値)	最新実績値	達成状況 (※)	K P I の達成状況(H30実績)			
				A 目標を上 回って達成	B 目標を 概ね達成	C 目標を 未達成	目標達成 (A+B)割合
4 自然と共生しながら、 都市の機能を向上する「上 質なくらしを実現できる都 市」	①市民1人当たり温室効果ガス排出量 4.12t-CO ₂ (2009年) → 3.13t-CO ₂	4.05t-CO ₂ (2016年)	7.1%	3	5	4	67%
	②さいたま市内駅乗降客数 1,827,267人/日(2014年度) → 2,000,000人/日	1,977,588人/日 (2018年度)	98.9%				

(1) 達成状況

(※) 4の①は、2009年時点の数値(4.12-CO₂)からの削減の進捗割合。その他の項目は、目標値に対する最新実績値の達成状況。

<基本目標の数値目標>

- ・「市民1人当たり温室効果ガス排出量」は、最終年度での目標値の達成は厳しい状況と考えられるが、目標とする減少方向には進捗している。なお進捗に遅れが生じた要因の一つとして、東日本大震災以降、原子力発電から火力発電へと電源構成がシフトしたことが挙げられる。
- ・「さいたま市内駅乗降客数」は、令和元(2019)年度改定において目標値を上方修正しており、改定前の目標値(1,860,000人/日)は既に達成している。

<K P I >

平成30(2018)年度のA・B評価となったKPIの個数割合は67%であり、A・B評価に至らなかったKPIは、「認証スマートホーム戸数」及び「緑化協議により創出された緑化面積」のほか、ハード整備に係る「都心・副都心の土地区画整理事業及び市街地再開発事業の進捗率」及び「自転車通行環境整備延長」であった。

(2) 振り返りと今後の方向性

温室効果ガス排出量の削減については、外的要因の影響を受けながらも、**目標値の達成に向けて市として注力していく必要**がある。

また、都市機能の向上という観点で目標としているさいたま市内駅乗降客数については、当初の目標値を早期に達成していることから、**取組の成果が順調に現れている**と言えるが、基本的方向で掲げる東日本のハブシティに向けた都市機能向上のため、引き続き、広域連携を意識した交通アクセス向上への取組、魅力的な都心・副都心づくりを進めていく必要がある。

これらのことから、基本目標(4)に係る取組は、**方向性を維持しつつ継続すべき**と考える。

2. 基本目標ごとの振り返り 基本目標（5） みんなで安全を支える 「安心減災都市」

基本目標	数値目標 (計画策定当初値 → 目標値)	最新実績値	達成状況 (※)	K P I の達成状況(H30実績)			
				A 目標を上 回って達成	B 目標を 概ね達成	C 目標を 未達成	目標達成 (A+B)割合
5 みんなで安全を支える 「安心減災都市」	①本市に「災害に強く、治安のよいまち」という イメージを持っていると回答した市民の割合 23.8%(2014年度) → 32.0%	28.9% (2019年度)	90.3%	5	13	3	86%

(※) 目標値に対する最新実績値の達成状況。

(1) 達成状況

<基本目標の数値目標>

・「本市に「災害に強く、治安のよいまち」というイメージを持っていると回答した市民の割合」は、目標値までは到達していないものの、当初値よりも目標値へ近づいている。

< K P I >

平成30（2018）年度のA・B評価となったKPIの個数割合は86%であり、A・B評価に至らなかったKPIは、「防犯カメラ設置支援台数」、「自治会加入世帯数の増加」及び「自主防災組織の結成率」であり、ハード整備（公共施設耐震化等）に係るKPIはすべてB評価以上となった。

(2) 振り返りと今後の方向性

本市に「災害に強く、治安のよいまち」というイメージを持っていると回答した市民の割合は順調に増加していることから、**一定程度の成果**が得られたといえる。一方で、**激甚化する災害への対応については、全国的により一層の対策を強化**していくことが急務となっており、地域の防災活動を支える取組や広域防災拠点防災としての役割を踏まえた取組などを推進していく必要がある。

これらのことから、基本目標（5）に係る取組は、**方向性を維持しつつ継続すべき**と考える。